

# 15世紀タイにおける精靈戦争

Spirits' Wars in Fifteenth-Century Thailand

加 納 寛\*  
Hiroshi KANO

The purpose of this paper is to investigate the network between human beings and spirits of cities or countries divided into opposing forces in the wars of fifteenth-century Thailand. The materials for this paper are collected from a historical poem "Yuan Phai", a tale poem "Phra Lo", both composed in the 15th century, and "The Chiang Mai Chronicle".

Thai people believed that their cities or countries ("muang") were protected by the guardian spirits. If one had wanted to attack the other "muang", he had to defeat the enemy's guardian spirits in advance. However, human beings could not attack the enemy's guardian spirits by themselves. Therefore, to defeat the enemy's guardian spirits, human beings had to depend on the powers of own guardian spirits and spirit's doctors. They were spirits' wars. The means of spirits' wars are classified into two types. One is that spirits' army was organized by spirits' doctor and attacked the enemy's guardian spirits directly. Another type is that spirits' doctor was sent to enemy's "muang", and angered the enemy's guardian spirits to intercept the reliance between the enemy's guardian spirits and the human beings. Thereafter, human army would attack and defeat the enemy's human army easily, because the enemy had no guarding spirits.

The spirits' world was imagined as the parallel world of the human world. And the parallel world was located in the important position in the politics of fifteenth-century Thailand.

## 1. はじめに

タイの古典文学には、呪術（ໄສຍຄາສດ）や精靈（ຜົນ）がしばしば登場する。前近代のタイ社会において、呪術や精靈が何らかの役割と位置付けを与えられていたと考えることは、決して不自然ではない。

しかし、タイ史における呪術と精靈の役割については、従来ほとんど注目されてこなかった。14世紀に成立したとされる『浄水詩（ສຶກໂລງກາຮຽນ້າ）』は、王への忠誠を誓う儀礼（ພຶກຕົວນ້າພະພັນນ ສັດບາ）の中で用いられたものであるが、そこには精靈の名が多く登場するため、王権との関わりの中での精靈の役割に注目したワイアットや森、スネートなどによる一群の研究が存在しているものの<sup>1)</sup>、タイ史研究の中では『浄水詩』以外の史料からこのテーマに挑むものはほとんどない。古典文学研究では、『クンチャーン・クンペーン』に登場する呪術に関してタッサニーによる研究があるが〔ທັສນີຢ 2516 (Thatsanī 1973)〕、文学と仏教との関係についての研究が大いに進んでいるのに比して、文学と

\*愛知大学国際コミュニケーション学部

呪術や精霊との関係を深く研究しているものはきわめて少ない。このように、前近代のタイ社会において呪術や精霊が何らかの役割を与えられていたであろうことは推量できるものの、人間社会と呪術や精霊との関係をタイ史上に位置づける努力は従来ほとんどなされておらず、王権との関わり以外の側面については精霊や呪術の具体的役割や位置づけは解明されていないままである。

そこで本稿では、精霊や呪術についての記述が史料中に多々見られる戦争状態に注目し、そこから呪術や精霊の前近代タイ社会における役割と位置づけの一端を観察していきたい。戦争状態における呪術や精霊のあり方を描いた史料が多い時期としては、15世紀が挙げられる。15世紀は、アユッタヤーのトライローカナート王（สมเด็จพระบรมไตรโลกนาถ）とチェンマイのティローカラート王（เจ้าพระยาติโลกราช）との間で紛争が絶えなかった時期であり、それを描いた史料が多く残されている。

本稿は、戦争状態において敵・味方に分割された陣営間に形成された人間と精霊のネットワークの中における呪術と精霊の役割を観察し、15世紀タイ社会における呪術と精霊の位置付けを考えることを目的とする。

史料としては、15世紀アユッタヤー・チェンマイ間戦争に関する『ユワン・パーイ』および『チェンマイ年代記』の記述と、15世紀に成立したとされる『プラロー』の叙述を使用する。

『ユワン・パーイ（ယဉ်ပာယ်）』は、アユッタヤー・チェンマイ間の戦争についてアユッタヤー側の視点から記述した叙事詩である。「ユワン」はチェンマイを、「パーイ」は「敗北する」を意味するので、「ユワン・パーイ」は「チェンマイ敗れたり」と訳すことができる。その内容は、アユッタヤーのトライローカナート王の事績を戦果を中心に讃えるものであり、1475年頃アユッタヤーもしくはピサヌロークで成立したとされる (Griswold & Prasart 1976:123)<sup>2)</sup>。この詩は、アユッタヤー王の事績を過大に表現する方向性があるものの、当時の戦争の様子を知る上ではきわめて重要な同時代史料である。

また、同じ時期の闘争をチェンマイ側の視点から描いたものとして、『チェンマイ年代記（ຕ່ານານພື້ນເມືອງເຊີຍໃຫມ່）』が挙げられる。これは、チェンマイ開府から1827年までの年代記である<sup>3)</sup>。したがってこの史料については同時代史料とは呼べないものの、15世紀のアユッタヤー・チェンマイ間の緊張関係化における呪術の活用について詳細な叙述を含んでいる。

さらに、15世紀に成立したとされる説話詩『プラロー（ພະລອດ）』には<sup>4)</sup>、精霊と呪術が生き生きと描写されている。敵対国同士の王女と王が、許されぬ恋に身を滅ぼす悲劇である<sup>5)</sup>。北タイの民話に取材して書かれたといわれており、その内容は史実とは異なることが多い説話であるとはいえ、15世紀の呪術や精霊に関する観念を知る上で貴重な同時代史料である。

以下、これらの史料に登場する15世紀における呪術と精霊の役割を観察していく。

## 2. ムアンの守護神としての精霊

現在、タイのいたるところに遍在する小祠は、土地神祠（ศาลพระภูมิ、ศาลเจ้าที่）であることが多い。土地神とは、「一定の土地に常駐しつつ、その土地と、その土地に関係する人々と事物を守護する神あるいは精霊」である〔加納1996：31〕。こうした土地神は、一軒の家や一棟の建造物を守護する存在として祀られる場合もあれば、村や町、ひいては国を守護する存在として祀られる場合もある<sup>6)</sup>。町や国、すなわちムアン（ເມືອງ）を守護する神・精霊<sup>7)</sup>としては、国礎神（ໜັກເມືອງ）信仰が知られている。バンコク王宮前広場東側の国礎神祠をはじめ、多くの町で国礎神の祠を見ることができる<sup>8)</sup>。森

によれば、国礎神はムアンの「呪的鎮護のかなめ」であるという [森 1973: 5]。

このようなムアンの守護神・守護精霊の存在は、歴史的にも跡付けることができる。たとえば、スコータイ朝においては、スコータイの南にそびえるルアン山の「プラ・カプン（ພຣະຂພັນ）」信仰が知られている。スコータイ第1碑文によれば、このプラ・カプンは、ムアン内の精霊のうち最も偉大な精霊であり、スコータイの王がこの精霊を正しく祀ればムアンは栄え、精霊を正しく祀らなければこの山の精霊がムアンを守護しないため、ムアンは衰亡するとされている [スコータイ第1碑文第3面6-10行 ក្រោមគិតលក្ខករ 2533 (Krom Sinlapakon 1990) : 29]。ムアンの王とムアンの守護精霊との間に、祭祀と守護の相互関係が成立していることがわかる (図1 参照)。王からの精霊に対する祭祀が欠ければ、精霊からムアンに対する守護関係も消滅することになる。

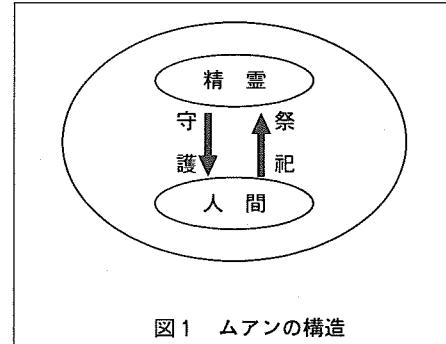


図1 ムアンの構造

本稿の対象である15世紀においては、あるムアン<sup>9)</sup>の攻防戦をめぐる『ユワン・パーイ』の記述中に次のようなものがある。ムアンの守将が部下に対するおこなった訓示の一節である。

◎ เมืองนี้พ่อแม่คุ้ม	ครอบคลุม ชีพด่า
ແຫນງຊື່ນຊົມເລາໄຂຍ	ໂທໜອນ
ອຍ່າພລວມມີນແສນຮຸນ	ເຮັດ້ວຍ ຄາມນາ
ຂໍວາພລວມໝານລ້ອມ	ກລ່າງກັນ ฯ [ຍານພ້າຍ ບທທີ 172]

このムアンは、父母（の靈）が護っている。その守護が絶えたことがあろうか（いやない）。

父母は戦い、勝利に歓喜の声をあげる。

敵が万や十万いたところで、我らも街に満ちている。

敵の乱れた軍勢が我らを取り囲んだところで、敵はさえずることしかできはしない。

[ユワン・パーイ第172節]

祖靈がムアンを守護するという信仰が、15世紀において存在していることがうかがえる。ムアンの守護神である祖靈の存在とその守護を信じることで、ムアンの守備隊の士気が維持されることになる。

このような祖靈であれ、プラ・カプンのような自然靈であれ、こうした精霊がムアンを守護している以上、敵のムアンを奪取するためには、敵の守護神・精霊を擊破するか（直接侵略）、あるいは敵の人間・精霊間の相互関係を妨害して敵の守護神の人間にに対する保護を遮断しなければならない（間接侵略）。そこに精霊戦争が生じる必然性が生じるのである。

以下、精霊戦争の諸相を、まず直接侵略について、爾後間接侵略について観察していくことにしよう。

### 3. 精霊による直接侵略

敵の守護神・精霊を直接的に撃破する直接侵略の事例は、『ユワン・パーイ』の叙述中にも見ることができる。アユッタヤー軍がチェンマイ側の守るムアンをまさに攻め落とそうとする場面である。

◎ พันภกหล้าพ่าผ่า	ເພັກລ້າ
ภาเจวงอັກອົງ	ແຫລ່ງເໜ້າ
พระรามณີພຣດສັງວາລຍວລ	ໂທນູດ ແລ້ວແຊ
มากຸ່ເປັນເຈາເຕັນ	ດິນໜີ່ ၄ [ຍາວພ່າຍ ນທທີ 172]

奇妙にも劫が尽きて空が燃え  
地面はざわめく  
バラモンは行をおこない、バラモン紐を肩にかけ、火の勢いはいよいよ盛ん。  
精霊は驚き逃げ出した [ユワン・パーイ第280節]

侵攻部隊に従軍するアユッタヤー側のバラモンが、火を用いた儀礼を実施すると、その効力によって防御側の守護神（ปู่ເປັນເຈາ）が驚いてムアンから逃走してしまう。これによってムアンは精霊による守護を失い、容易に撃破される態勢に陥るわけである。

『プラロー』には、このような呪術による敵守護精霊撃破を活写した部分がある。  
『プラロー』は、敵対する2つの隣接したムアンが舞台となる。一方のムアンの2人の王女が、もう一方のムアンの王プラローに恋してしまうのが物語の発端である。恋に焦がれた2王女は、敵の王にして恋しいプラローの呼び寄せ工作を、偉大な呪術師プーチャオ・サミンブラーイ（ປູເຈົາສົມິງພຣາຍ<sup>10</sup>）に依頼する。

プーチャオは当初、プラローを呪符でおびき寄せようとするが [プラロー第117節]、この工作はプラロー側の呪術師（ໜອຜີ）の妨害によって頓挫してしまう [プラロー第124, 127, 130, 139節]。

そこでプーチャオは、敵の呪術的妨害を阻止するために、敵の守護精霊に対する直接的な武力攻撃を企図し、次の手段に移行する。

◎ ບຸຮາພຶ້ງເຖິງເຫັດ	ຫາກັນມາແດປ່າ	ນາແດທ່າແຕນ້າ	ນາແດດັກຄູຫາ	ທຸກທີ່ຄົນານັ້ນເຝົ້າ
ພຣະປູເຈົາທຸກຕ່ານລ	ດົນບຣັພຣາທຸກໜຸ່ງ	ຕຽຈດຣາວຍຸ່ທຸກແໜ່ງ	ປູແຕ່ງພຣະພນໍສົນດີ	
ສຕືຣພຣມຮັກໝໍຍັກໝໍກຸມາຮ	ບຣັພຣກຸດປີສ່າຈ	ດາເຕີຍຮຣາຈນໍ້ມາ	ນາຍກຄນແລຄນ	
ດົນເທັພຍຜູ້ທ້າວທ້າວຜູ້ໜາຍ	ເຮືອງຄຸທີ່ຂາຍໆເສື້ອໜາຍ	ດັ່ງເປັນນາຍເປັນນຸລ	ດ້ວຍບຸນໃຫ້ໜ້າໜ້າ	
ນັ້ງໜີ່ເສື້ອໜີ່ສົ່ງ	ບ້າງໜີ່ໜີ່ໜຸ່ມ	ບ້າງໜີ່ໜີ່ໜຸ່ເຊື່ອກ	ບ້າງໜີ່ຄວາຍໜີ່ແຮດ	
ແພດຮ້ອງກ້ອງນ້າກລົວ	ກຸດແປຣດ້ວຍລາຍຫລາກແປຣເປັນກາກກ່າ		ເປັນໜ້າກາຫ້ວແຮງ	
ແສຮັງເປັນໜ້າເສື້ອໜ້າໜ້າ	ເປັນໜ້າກວາງໜ້າຈັນ	ດ້ວຍດັ່ງກັນພັນລຶກ	ລົດົກມອາວຸຮ	
ເຄື່ອງຈະຍຸທະຍົງຍື່ງ	ເຕັນໂລດວົງຮະບັງ	ຄຸກເຄຮງເສີຍຄະຄວັນ	ພື້ນໄມ້ໄລທິນພາ	
ຕາຈາກັນພາດເຜັງ	ຮເຮັງຮ້ອງກ້ອງກ່ຽວຍິ່ງ	ເສີຍສເທືອນຮຣັນ	ເທີບນພລື່ເສົງສຣາພ	
ປູກົກົບຕັນທຸກປະກາດ	ຈຶ່ງບອກສາຮັນຈະໃໝ່		ໃຫ້ທັງຍານນົດລ	

บอกหังกลอันจะทำให้หาย่าเข้าเพื่อ  
ดีเข้าแพ้แล้วไส ภูจังจะใช้สลาเทิร เดิรเวหาไปส เขญพระภูธรท้าว ชักมาส่องหยา  
อย่าคล้ำค่าก สั่งนี ฯ [พระลอ บทที่ 144 (รายตอนที่ 33)]

プーチャオは、全方角の森から水から洞窟から神々を呼び出した。神々はプーチャオの前に伺候する。全ての村の神々は自分の全ての手下どもを従えていたるところを巡観した。プーチャオは、多くの手下の精霊を従えたプラ・パナッサボーディーとシープロムマラック、ヤッククマーンを主将に任じ、勇敢にして神通無碍の神々を部将に任じ、あるいは象に、あるいは虎に獅子に、あるいは熊に豚に、あるいは蛇に、あるいは白馬に、あるいは牛に水牛に犀に騎乗させた。神々は大声はりあげ恐ろしい。精霊たちはいろんな姿に化けていく。鳥に化けたり、鳥頭、鷺頭、虎頭やら象頭、鹿頭やらに化けたりで、おののおの奇怪で猛々しく、得物を握って闘志満々。かしましく躍り上がったり、大声を張り上げたり。樹木や岩石引っこ抜き、あちらこちらに突き進み、あわてふためき雄叫びをあげ、大音声に大地も揺れる。精霊軍団の編成完了、プーチャオは様々な命令を下し、用いる符牒を教え、呪薬と符呪を与えた。敵を青ざめさせるような呪薬を調合する計略を授け、敵の威を削ぎ敵の守護神を敗走させ敵の精霊を圧倒する呪文を教えた。(プーチャオが言うには)「我はそれから飛びビンロウ<sup>11</sup>を用い、時を動かし王(プラロー)を2王女の許へ誘き寄せる。我が命令に背くなよ。」

[プラロー第144節(第33ラーアイ)]

プーチャオは、ムアンの各所から精霊たちを招集し、部隊を編成していく。精霊にもヒエラルキーが存在したことが読み取れる<sup>12</sup>。上位の神・精霊は将校に任じられて乗物を与えられ、下位の精霊たちは兵として部隊に編成される。将兵が武器を執り部隊編成が完了すると、プーチャオは命令を下達・徹底し、符牒を与えて通信手段を確立し<sup>13</sup>、また呪術に使用する呪薬や符呪を与えたのであった。いよいよこの精霊軍の出陣である。

◎ พิศเพียงผีพากพ้อง เพียงพล มารແສ  
ເຕັມປາພຖກໝໄພຮສນ່າ ແລະກນຸ້າ  
ນານາກົມາດລ ແດນຮາຍ  
ເສົ່າຍແດນຊຽກຮ້ ເຮັງຮັງເຮັກກັນ ฯ [พระลอ บทที่ 146]

これらの精霊見てみると、悪魔の軍にも並ぶほど。

森に満ち満ち木々は木っ端微塵。

ほどなく(プラロー)王の地に到り、

(プラローの)地元側の精霊も(敵の襲撃を)知り、急ぎあわてて呼び集う。

[プラロー第146節]

奇襲を受けたプラローのムアンの精霊たちも、あわてて呼び集まり、応戦態勢の確立に努める。しかし、プーチャオの精霊軍のように周到な準備や調整を実施する余裕はない。受動に陥ったまま、主動を確保できず敵に翻弄されてしまう。

◎ นาอกลาກลาศกันແດນ ຜີແບກແດນເຂັ້ມງຸກ ຜີແດນຮຽບພັ່ງ ແລ້ນໄລ່ຢູ່ໂລດເຕັນ  
ນ້ຳງຫລນນ້ຳງຫລັກເຮັນ ບໄດ້ຕອບດີ ພຣະລອ ບທທີ 147 (ຮ່າຍດອນທີ 34)]

(地元側の精靈も) 大勢連れ立ち防戦する。異土の精靈は怒りも激しく、地元の精靈は応戦追撃駆け回る。(しかしついには) 地元の精靈は逃げたり、隠れたり。応戦もかなわぬまでに。  
[プラロー第147節(第34ラーアイ)]

結局、プラローのムアン側の防御は総崩れとなつた<sup>14</sup>。この第147節では、「地元の精靈(ຜີແດນ)」<sup>15</sup>と「異土の精靈(ຜີແບກ)」の対比が鮮明に描写されている。ムアンの国境は、人間も精靈も同様に明確に分断している。

◎ ຜີຍຸ່ງຮັບກັນດ້ວຍ ຜີແຂວງ ແດນນາ  
ຜີທຸນຜີໄລ່ແທງ ພາດຜ້າຍ  
ຜົນແຜງແພດຮັບແຮງ ຮອງເຮັງ ພລນາ  
ຜີແບກຮຽບຮ່າຍ ຮົນເຮົາຮອນພລາຍ ພຣະລອ ບທທີ 148]

侵入してきた精靈は、地元の精靈と相戦い、  
放り投げたり追って突いたり、突進したり、  
変身したり、怒鳴ったり、激しく争い急ぎ呼び合う。

異土の精靈、進撃激しく、(地元の精靈を) 断ち滅ぼす。 [プラロー第148節]

◎ ຜີນັນດາລີຟດສຸ່ນ ໄກສັນກລຸ່ມເວ່າຫາ ດ້ວຍແຮງຍາແຮງມນດ ຜີແດນທනທານຍາກ  
ຈຶງຝາກຂ່າວແກລ່ມ ກີກກອງອັນພຣມ ສັດພລັດປຣີປຣິງນາ ບອກແກ່ເຫັພດາເສື້ອເນື້ອງ<sup>16</sup>  
ພໍາຫລາເໜີ້ອງອຸນາຫວ່າ ອາກສະຄຸນເປັນດວນ ພໍາເຄຮັງຄຣ່ອງຊີດຝ່າ ໄຈເນື້ອງນ້ຳດັ່ງຈະຜກ  
ໜ້ວອກເນື້ອງດັ່ງຈະພັ້ງ ເຫັພດາຟັງພົັນ ຕກໃຈສິ່ນຮະຮວາ ກລັວຄຸທີ່ພຣະປູ ຜູ້ມີເດືອກເກຣີຢູ່ໄກຣ…  
[ພຣະລອ ບທທີ 150 (ຮ່າຍດອນທີ 36)]

呪薬と符呪の呪術によって、異土の精靈、火を起こし、煙に空を覆わせた。地元の精靈ついにたまらず、(敗北の) 報せを風に託した。(報せの声は) 空に響いて突き進み、ムアンの守護神に報告する。天は黄ばんで不吉、空は煙って暗くなる。天は轟きムアンの中心は騒ぎでひっくりかえる。ムアンの中心は崩れ去る。神は聞いてブルブル震え、驚きガタガタ震えたまま。威徳あふれるブーチャオの、力に恐れいるばかり。(後略) [プラロー第150節(第36ラーアイ)]

ついに勝敗は決し、防御側の前線で戦った精靈たちは、ムアンの中心に位置するムアンの守護神テーパダー・スマムアン(ເຫັພດາເສື້ອເນື້ອງ)に敗報を送った。この第150節で、はじめて戦場がムアンの周縁であったことが明示され、ムアンの守護精靈のヒエラルキーの最上位に君臨するのがムアン中枢の町に常駐しているテーパダー・スマムアンであることが読み取れる。

プラローのムアンの呪術師モー・シッティチャイ(ໜມອສີທີ່ໜ້ຍ)は、ムアンに生じた異変に気づき、王母に報告する。

◎ ບຸດບັນຫາພັນ  
ເທິພາດາສີທີ່ຕັກດີ  
ຜົສາງສুരারক্ষ  
ບາທ່ານເຕີມມາໄທ

ແຮງນັກແມ່ຍໍາ  
ທ່ານໃຊ້  
ເຮົາພ້າຍ ມີນາ  
ເສື່ອມຂ້າງຍາເຮົາ ၅ [ພະລວມ ບທທີ 152]

老師が見極め話すには、「力及ばぬことでした、王母様。  
あの方（プーチャオ）が用いたは、靈驗あらたかな神、  
我らの精靈守護神は負けて逃げていきました。  
あの方が出してきた呪薬は、我らの呪薬の効果を滅してしまいました。」

[プラロー第152節]

「精靈守護神（ຜົສາງສুരারক্ষ）」は、テーパダー・スマムアン以下の「地元の精靈・神」全体を意味している。モー・シッティチャイは、敗因を呪術師自らと守護精靈の靈力の差にあると結論しているが、物語の流れとしては、靈力格差にあわせてプーチャオの周到な準備による終始一貫した主動性の保持と奇襲の効果によって勝敗が決したように読める。

◎ ຜົກາຍໃນແລ່ນອອກ ແລນາ ຜົກາຍນອກແລ່ນເຂົ້າ ແລນາ ເທິພາບຸເຈົ້າສັ່ງ ແລນາ  
ມາທ່າດັ່ງປຸສອນ ແລນາ ໃຫຍ່ອຍ່ອນທຸກລຶ່ງ ແລນາ ຈຶ່ງໃຫ້ສາຣໄປກລ່າວ ແລນາ ຈຶ່ງໃຫ້ຂ່າວໄປຄົງ  
ໆແລນາ ສົມງພຣາຍຜູ້ເຄົາ ແລນາ… [ພະລວມ ບທທີ 155 (ຮ່າຍດອນທີ 37)]

(ムアン) 内の精靈は外に逃げ、外の精靈が内に入る。プーチャオが命じた神は、プーチャオの教えのままに事を行い、(ムアンの力の)すべてを弱め、それからプーチャオ・サミンプライに報告を送った。(後略) [プラロー第155節 (第37ラーアイ)]

プーチャオの精靈軍は占領軍としてプラローのムアンに乗り込み、ムアンの呪力を弱める作業に着手する一方で、プーチャオに報告を送った。結局、ムアンの守護精靈たちが敗走し、ムアンを守護する呪力が消滅したために、プラローのムアンは敵の呪力に対して無防備になり、敵の思うがままに操られることになる。この後、プラロー王は、プーチャオの呪術によって、敵のムアンに呼び寄せられてしまうのだった。

このように、直接侵略では、直接的に我のムアンの精靈の武力を用いて、敵の精靈を敗走させ、もって敵の精靈によるムアンの守護を遮断する(図2)<sup>10)</sup>。一旦精靈による守護を遮断してしまえば、その後は呪薬や符呪によって敵のムアンや人間を効果的に支配することが可能になるのである。

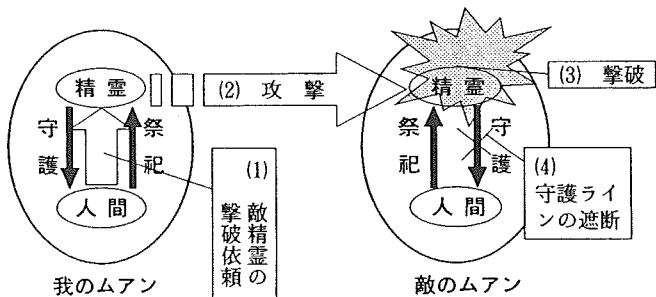


図2 精靈による直接侵略

#### 4. 精霊による間接侵略

他国を攻撃する場合、これまで見てきたような直接的な精霊侵攻を実施する以外にも、敵の人間・精霊間の「祭祀一守護」ラインを妨害する手段があった。それが間接侵略である。以下、『チェンマイ年代記』の事例を見てみよう。

アユッタヤーの王「プラヤー・タイ（พระยาไถ）」すなわちトライローカナート王は1464年から1466年までの間僧籍に入るが、実はその間もチェンマイに対する野心を捨ててはいなかった。チェンマイに対し出家に伴う喜捨として土地を要求するが、それが拒否されると水面下での間接侵略を企てた〔チェンマイ年代記：59-60〕。

そこで、アユッタヤー王は、パガンから来たある行者（เชี่ยวาน）をもてなし〔チェンマイ年代記：60〕、その策略に通じているところを見込んで対チェンマイ工作のために雇い入れた。行者は、チェンマイの地形・形状を聞き、町の東北（อิสาน）に立つガジュマルの樹（ไม้บินโคตร）がムアンの「シー・ムアン（ศรีเมือง）」すなわちムアンの守護神であることを知った。この樹がある限りチェンマイの威徳は衰えないと判断し、いかにこの樹を除去するかに策をめぐらした〔チェンマイ年代記：61〕。

行者は、一旦ビルマに戻るとチェンマイに向かい、チェンマイのワット・ナンターラーム（วัดน้ำทาราม）に入った。チェンマイ王は、行者の学識の高いことを聞き及び、多くの賢人、占師を招き、行者の学識を試したが、行者はことごとく正しく答えたので、チェンマイ王の信頼を得た〔チェンマイ年代記：61〕。

チェンマイ王はそののち、国事について何事もその行者にうかがいをたてることになり、何事も昔より繁栄した。行者はパガン僧マンルルワン（ເກຮະພຸການມັງລູງຫລວງ）として知られるようになった。そこで、チェンマイ王は家臣をパガン僧の許に遣わし、行者の学識のおかげで国はうるおったが、さらに王威を発揚し、長寿幸福をなしとげるにはどうすればよいかを尋ねに行かせた〔チェンマイ年代記：61-62〕。

行者は次のようにその方法を述べた。

ส่วนเมืองพิงค์เชียงใหม่นี้      ศรีอุ่วอิสาน      ควรตั้งนิเวศน์ในสถานที่นั่น  
แม่นมีไม้ใหญ่ก็ต้นพราวต้นดาลก็ต้นห้อดัดห้อขุดเด้าหากออกเสีย  
ห้อรำบเพียงตัวแล้วจึงตั้งราชมณฑ์เบียรในที่นั่น

「このチェンマイの街は、シー・ムアンが東北にあります。そこに宮殿を建てるべきです。  
(中略) もし大樹やらヤシの樹やらがあったならば、伐って根っこを掘り起こし、よく削平してからその地に宮殿を建てましょう。」〔チェンマイ年代記：62〕

チェンマイ王は報告を聞いて喜んだ。家臣を遣わし、パガン僧の言うがままに実行に移し、マンラーアイ王時代に築かれた城壁の一部を壊させ堀を埋め立て、ムアン・チェンマイのシー・ムアンであるガジュマルの樹を伐らせて根ごと取り除いてしまった。パガン僧は自ら現場に足を運び作業指示をし、完全に削平した土地に寝殿やら象舎、廄などを建てさせた。そして、その地を「シープーム（ศรีภูม）」と呼び、門をうがって「シープーム門」とし、その年のシープーム祭祀を実施した〔チェンマイ年代記：62〕。

1466年のことである。

パガン僧は言った。

ເຮົາສ້າງຕັບກົມແລ້ວບັນຍຸຮຣູນໆ ບຸປະກາຮ  
ເຕືອນໄດ້ວັນໃດຕີຈັກຮະຫຼາກທ່າອົກີເສກມຫາຮາຊ໌ທົ່ວປ່ຽນສັກກະຮະໝນກູຫົວປ້ົງນົລ  
ອັນທຶນນັ້ນບ້ານຕັບກົມມີເຕະຄຸທີ່ນັກ  
ຕັ້ງຫອນອນທີ່ນັ້ນມີເຕະນັກເນື້ອໄດ້ໄດ້ຢືນຂ້າວໜ້າຕົກຈັກນາແດ່ທີ່ສຫນໄດ  
ເຫຼົ່າທົ່ວແຕ່ງດອກໄນ້ຄົນຮະຂອງຫອມໄປຕັ້ງໄວ້ເຫັນອໍາຮາສານາໃນຫອນອນແລ້ວ  
ດົບເສາໃນທີ່ສຫນນັ້ນ ຂ້າຕົກຫາກຈັກພາຍຫີນຕ້າຍເຕະນຸກພາພແ່ງເສຳນົມລົມນັ້ນໜ້າແລ້ວຈຳວ່າອັນ

「我らはシープームを建てて完成しました。いずれの月かいずれの日か、南閣浮提を平定する大王の座につかれるでしょう。シープームの家は御稜威にあふれ、そこに威徳ある寝殿を建てたので、いつどこから敵が来てもその報を聞くことができるでしょう。芳香ただよう花を寝殿の御玉座の上に飾り、その方角の柱を叩いたならば、敵は吉祥柱の威力によって敗走するでしょう。」 [チェンマイ年代記：62]

そのパガン僧がアユッタヤー王に雇われ、「シー・ムアンの樹（ໄມ້ຕັບເມືອງ）」を伐除し、そこに「シープーム宮殿（ບ້ານຕັບກົມ）」を住居として建て糞尿を廃棄する場としてからというもの、ムアンには多くの凶事が発生した [チェンマイ年代記：63]。

ほどなくして、アユッタヤー王は行者=パガン僧の「シー・ムアンの樹」除去の首尾を知るためにチェンマイに使節を送った。また、アユッタヤー王は、チェンマイの門に呪薬を埋めさせるために別の人々<sup>10</sup>を雇って使節に同行させた。チェンマイ王は3名の呪術師（ໜ່ອງ）を召して何が起きているかを語らせた。これにより、アユッタヤー王の密命を帯びた者が捕まり、その者の口から、パガン僧のシー・ムアン除去の企みも曝露された。2人は撲られ、川に投げ捨てられた。使節は古式に則って送り出されたが、国境で全員殺された [チェンマイ年代記：63-64]。

以上に紹介したように、チェンマイの「シー・ムアン」すなわちムアン・チェンマイを守護する土地神は、チェンマイ市街の東北隅に立つガジュマルの樹に宿っていた。現在、チェンマイ市街を囲繞する城壁の東北隅



写真1 チェーン・シープーム国礎神祠

には、「チェーン・シープーム国礎神祠（ສາລະຫລັກເມືອງແຈ້ງຕັບກົມ）」が建立されている（写真1）<sup>11</sup>。

アユッタヤー王が雇ってチェンマイに送り込んだ人物が遂行したのは、(1) チェンマイ市街の東北にあるムアンの守護精霊が宿る樹を、チェンマイ人を欺瞞して彼ら自身に伐除させたこと、(2) 市街

の東北隅<sup>19</sup>の防御施設を、チェンマイ人を欺瞞して彼ら自身に排除させたこと、の2点であった。この工作においても、アユッタヤー側の人物は直接に自ら手を下して敵の守護精霊を排除せず、あくまでも敵の王を欺騙して敵自らが守護精霊との関係を絶つように導いている。直接侵略の事例でも観察したように、人間が敵の精霊と直接交渉することは不可能であるという認識が存在したように考えられる。

アユッタヤー王はこの工作の成功後、別の人物を送り込んで呪薬を埋設させるなど更なる呪術的攻撃を企図している。間接侵略によって敵を脆弱な態勢に追い込んだ後は、さらなる呪術的攻撃もしくは人間による軍事的攻撃によって、敵のムアンを擊破・支配することが最終的目的となる。

このように、間接侵略では、敵の人間・精霊間の相互信頼関係を絶ち切るような行為に敵を誤導することにより、精霊による敵ムアンの守護を遮断する。この事例では、さらに敵自らに城壁を破らせ、堀を埋めさせ、呪術的のみならず人間社会の軍事的な部分でも脆弱な立場に誤導することに成功した。精霊による守護を失った敵ムアンは、我が干渉するまでもなく凶事が続出し、間接侵略行動に続くであろう呪術的攻撃に対しても人間による軍事的攻撃に対しても脆弱な態勢を強要されることになる。

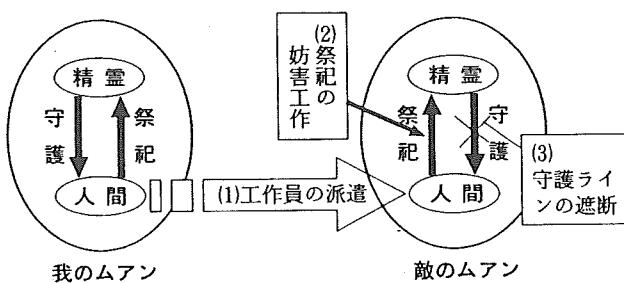


図3 精霊による間接侵略

## 5. むすび

以上、15世紀タイ社会における呪術と精霊の位置付けを考えることを目的として、戦争状態において敵・味方に分かれた人間と精霊のネットワークの中における呪術と精霊の役割を観察してきた。

ムアンを守護する精霊の存在について史料を確認すると、ムアンを守護する精霊はヒエラルキーをもちながら複数存在し、人間同様に組織的に戦い、敗れれば逃げ失せるという観念が存在したことがわかった。こうした精霊が各ムアンを組織的に守護していると想定されたために、15世紀タイにおける戦争では人間間の戦争に先立ちます敵の守護精霊を擊破することが必要とされていたことが読みとれる。

人間の侵攻に先立って敵の守護精霊を擊破する手段は2種類に大別できた。直接侵略と間接侵略である。

『ユワン・パーイ』や『プラロー』には、精霊を用いた直接侵略の例が描かれていた。バラモンや呪術師が自己のムアンの精霊を招集して部隊を編成し、敵のムアンに送り込んで敵の守護精霊を奇襲撃破する。ムアンの守護精霊が敗退すると、ムアンの防衛は脆弱になり結局人間世界においても敗北を喫することになる。

一方、『チェンマイ年代記』には呪術を用いた間接侵略の例が描かれていた。これは、敵のムアンに呪術の知識をもつ者を送り込み、敵を欺騙してムアンの守護精霊が宿る樹木を伐除させるなど、敵の人間の守護精霊に対する祭祀を妨害することによって敵の守護精霊の力を減殺する方法である。

我々は、近代科学の観点からこのような精霊戦争や呪術の実際的効果を疑いがちであるが、呪術と科学が分離していない前近代においては呪術や精霊の観念が人間社会のあり方や活動に大きな影響をもっていたことに留意する必要がある。何らかの働きかけをすることで一定の効果を獲得するという呪術

(ໄສຍຄາສດ) のシステムは、近代における科学 (ວິທະຍາສາສດ) のシステムと同様の意味をもっていたのである。

人間は、呪術を使用して自己の守護精霊を招集して敵の精霊部隊を攻撃させたり、敵のムアンを欺瞞して敵の守護精霊への祭祀を妨害したりすることによって、ムアンの防衛力を減殺しようとした。

人間が直接に敵の精霊を攻撃することができず、精霊が直接に敵の人間を攻撃することもできないという点で、ムアンを分かつ国境線と同様に人間世界と精霊世界とは明確に分離されていることがわかる。

その一方で、精霊社会が人間社会と同様のヒエラルキーを持ち、精霊世界の敵対関係が常に人間世界の必要性に従属して構築されていく点で、精霊世界は人間世界の鏡像として想定されていることが読み取れる。人間世界における戦争の勝敗も支配関係も、精霊世界における戦争の勝敗に密接に結びついたものとして想定されていた。人間間のネットワークと同様に、精霊間のネットワークの存在が想定され、それが人間社会においても重要な意味をもっていたのである。15世紀タイにおいて、精霊信仰やそれを用いる術としての呪術は、戦争や政治をめぐる人間世界のネットワークの上で重要な役割を果たしていたといえる。

付記：本稿の執筆にあたっては、チュラーロンコーン大学文学部スネート・チュティンタラーノン博士に多くの助言を頂いた。また本稿の内容は、2004年7月の日本タイ学会第6回大会において発表の機会を頂き、多くの学兄から貴重なコメントを頂いた。ここに記して感謝申し上げる。

#### [注]

- 1) たとえば、Wyatt [1967], 森 [1967], ສຸນເດຕ (Sunēt) [2522 (1979)], ຜົດ (Chit) [2524 (1981)] などの研究がある。
- 2) 『ュワン・パーイ』の引用と解釈にあたっては ຈັນທີ່ບໍ່ (Chanthit) [2512 (1969)] によった。解釈については Griswold & Prasert [1976] も参考にした。
- 3) 『チェンマイ年代記』の解釈にあたっては、Wyatt & Aroonrut [1995] を参考にした。
- 4) 『プラロー』の最後の2節に着目し、そこに登場する「マハーラート」をナーラーイ王に比定して、17世紀前半に成立したとする説もある。15世紀に成立したとする説は、『プラロー』に使用されている語彙が、15世紀の他の作品に共通し、17世紀の作品群とは共通しないことを論拠としている [ກຽມສີລປາກຣ 2514 (Krom Sinlapâkōn 1971) : 7), ພຣະວາງທີ່ພືສີ 2530 (Phrawōrawētphisit 1987) : ຂ-ງ]。本稿では、15世紀成立説を採用している。
- 5) 『プラロー』の解釈にあたっては、富田 [1981], ພຣະວາງທີ່ພືສີ (Phrawōrawētphisit) [2530 (1987)], ຕ່າຮ່າ ດັນ ເມືອງໃຕ້ (Tamrā Na Muangtai) [2537 (1994)] を参考にした。
- 6) 土地神信仰については、加納 [1996, 2002] を参照されたい。
- 7) 本稿では、「精霊」を“ຜົດ”の訳語として、「神」を“ເຫວັດ (thēwadā)” や “ເຈົ້າ (čhao)” といった語の訳語として、それぞれ使用する。「精霊」のうち、その威徳や身分が比較的高いものが「神」である。なお、「精霊」や「神」のうち、事物を守護する性格の強いものは「守護精霊」・「守護神」とし、「精霊」のうちで祖先に由来する性格をもつものを「祖霊」、自然の事物に由来する性格をもつものを「自然霊」として表現した。
- 8) 国礎神信仰については、森 [1973] を参考されたい。
- 9) 現在のシーサッチャナーライであると考えられている [Griswold & Prasert 1976 : 128]。
- 10) プーチャオ・サミンプラーイ自身も大山の精霊である。
- 11) 呪薬である惚れ薬の一種である。
- 12) 精霊社会におけるヒエラルキーの存在は、スネートも『浄水詩』と『プラロー』の比較研究において指摘し

- ている [สุเนตร 2522 (Sunēt 1979) : 43]。
- 13) 人間社会における攻撃準備と同様の手順を経てることがわかる。敵情や地形についての情報収集について記述がないのは、その活動がこの動的な文脈に詠いこむには静的に過ぎるからかもしれないが、プーチャオが呪術的な眼力をもつことや、圧倒的な戦力を送り込むプーチャオに慢心があることを表現している可能性もある。
  - 14) 『ユワン・パーイ』における人間間の戦闘描写では、敗者が逃げたり隠れたりするとともに首なし遺体を戦場にさらす様子が描かれているが [ユワン・パーイ第271節]、『プラロー』における精霊間の戦闘描写においては遺体の記述は見られない。『ユワン・パーイ』と『プラロー』との史料の性格に起因する差異かもしれないが、精霊は死なないか、死んでも遺体を残さないことを表現している可能性もある。
  - 15) スネートは、この “ผีแคน (phidāen)” を国境の精霊 (ผีประจำชายแดน) ではないかとしているが [สุเนตร 2522 (Sunēt 1979) : 43]、「異土の精霊 (ผีแขก)」との対比で「(その) 土地の精霊」として捉えるほうが自然な解釈であろう。
  - 16) これらの史料から見るかぎり、15世紀タイの観念においては、人間は直接敵の精霊を攻撃することはできず、また精霊も敵の人間を直接に攻撃することはできないようである。そのために、自己のムアンの精霊軍を組織して敵の精霊軍を撃破するという手続きが必要となるのであった。
  - 17) ワイアットとアルーンラットによれば、この人物は雲南からの中国人ムスリムであろうという [Wyatt & Aroonrut 1995 : 96]。
  - 18) 現在の祠は、チェンマイ建材商クラブによって1983年に建立されたものである [祠額記載により1996年10月18日筆者確認]。
  - 19) 市街の東北隅が呪術的に緊要な地点として認識されていることは、東アジアの風水における「鬼門」の観念と類似している。両者に何らかの関連がある可能性もある。

## 史料

- กรมศิลปากร 2514 ลิลิตพะลօ กรุงเทพฯ : สำนักพิมพ์บรรณาคาร (Krom Sinlapākōn. 1971. Lilit PhraLō. Bangkok : Samnakphim Bannākhān. 芸術局『リリット・プラロー』)
- กรมศิลปากร 2517 ลิลิตยวนพ້າຍ กรุงเทพฯ : สำนักพิมพ์สังวิทยา (Krom Sinlapākōn. 1974. Lilit Yuan Phāi. Bangkok : Samnakphim Khlangwitthayā. 芸術局『リリット・ユワン・パーイ』)
- คณะกรรมการจัดพิมพ์เอกสารทางประวัติศาสตร์ สำนักนายกรัฐมนตรี 2514  
ต้านဏกົມເປື້ອງເບີຍໃຫມ່ กรุงเทพฯ : สำนักนายกรัฐมนตรี (Khanakanmakān catphim ēkasan thāng prawattisāt, Samnaknāyokratthamontri. 1971. Tamnān phູນ ມູຕັງ Chiangmai. Bangkok : Samnaknāyokratthamontri. 総理府歴史史料出版委員会『チェンマイ年代記』)

## 参考文献

### タイ語

- กรมศิลปากร 2512 ຕ່າരາພີໄຂຍສົງຄຣາມ ພຣະນະກົດ : ໂຮງພິມພະຈັນທີ (Krom Sinlapākōn. 1969. Tamrā phichai songkhrām. Bangkok : Rōngphim Phračhan. 芸術局『戦勝教書』)
- กรมศิลปากร 2514 “ค่านา” ลิลิตพะลօ กรุงเทพฯ : สำนักพิมพ์บรรณาคาร (Krom Sinlapākōn. 1971. “Kham nam” Lilit PhraLō. Bangkok : Samnakphim Bannākhān. 芸術局「はじめに」『リリット・プラロー』)
- กรมศิลปากร 2533 ສිලාජාරිකස්මූතය ທ්‍රේග්ධ ຕු ຈාරිກພොන්රාමචාແහෝ ກ්‍රුංතේ  
 ฯ : กรมศิลปากร (Krom Sinlapākōn. 1990. Silāchāruk Sukhōthai lak thi čhārukp̄hōkhunrām-hamhāeng. Bangkok : Krom Sinlapākōn. 芸術局『ラームカムヘーン王第1スコータイ碑文』)
- ฉิต ภูมิศักดิ์ 2524 ໂອງກາຮແໜ່ງນ້າ ແລະ ນ້ອດດໃຫມ່ໃນປະວັດສາສົດໄທຢູ່ລຸ່ມນ້າເຈົ້າພະຍາ  
 ກ්‍රුංතේ : ดวงกมล (Čhit Phūmisak. 1981. Öngkāñchāenām læ khōkhitmai nai prawattisāt Thai lūmnām Čhaophrayā. Bangkok : Duangkamon. チット・ブーミサック『浄水詩とチャオブランヤー川流

## 域タイ史の新知見』

- ฉบับที่ชัย กระแสงสินธุ 2512 ยวนพายโคลงดัน กรุงเทพฯ (Čhanhit Krasæsin. 1969. Yuan Phai Khlöndan. Bangkok. チャンティット・クラセーシン『ユワン・ペイ・クローンダン』)
- ฉบับที่ชัย พิยะกุล 2541 ต้าราพะนมาพิชัยสังคرام ฉบับวัดคุณอินทร์นิมิตร อ่าเภอเมืองพัทลุง จังหวัดพัทลุง สงขลา : สถาบันหักษิตศึกษา (Čhaiwut Phiyakun. 1998. Tamrā phichai songkhrām chabap Wat Khuaninnimit Amphoe Muang Phatthalung Čhangwat Phatthalung. Songkhla : Sathāban Thaksinkhadisoksā. チャイウット・ピヤクーン『パッタラン県ムアン・パッタルン郡ワット・クワンインニミット本戦勝教書』)
- ต้ารำราขานภพ 2469(2512) "ต้าน่า" ต้าราพิไชยสังคرام พระนคร : โรงพิมพ์พระจันทร์ (Damrongrá-chānuphāp. 1926 (1969) "Kham nam" Tamrā phichai songkhrām. Bangkok : Rōngphil Phračhan. ダムロンラーチャーヌバープ「はじめに」『戦勝教書』)
- ต้ารำ ณ เมืองได 2537 พระลอ กรุงเทพฯ : สำนักพิมพ์ไทยวัฒนาพาณิช (Tamrā Na Muangtai. 1994 PhraLø. Bangkok : Samnakphim Thaiwattanaphānit. タムラー・ナ・ムアンタイ『プラロー』)
- หัศปีย สุจันช์พงษ์ 2516 การใช้ไสยศาสตร์ในเสภาเรื่องขันช้างขันแผน  
วิทยานิพนธ์ปริญญาอักษรศาสตรมหาบัณฑิต จุฬาลงกรณมหาวิทยาลัย (Thatisanī Sučinaphong. 1973. Kānchāi Saiyasāt nai Sēphārūtang KhunChāng KhunPhæn. Master Thesis, Chulalongkorn University. タッサニー・スチーナポン『クンチャン・クンペーンにおける呪術の使用』)
- พระราเวทัยพลสิฐ 2530 ตุ้มอีลิດพระลอ กรุงเทพฯ : ครุสกา (Phrawōrawetphisit. 1987. Khūmū Lilit PhraLø. Bangkok : Khurusaphā. プラウォーラウェートビシット『リット・プラロー手引き』)
- สุเนตร ชตินธรานนท์ 2522 "ลิลิตโองการแข่งน้ำ และ พระราชนิธิสือน้ำพระพิพัฒน์สัดยา"  
วรรณธรรมศาสตร์ 9-1. (Sunēt Chutintharānon. 1979. "Lilit ὄngkānchāengnām lęe Phrārat chaphithīthubnāmphraphiphatsattayā" Wārasān Thammasāt. 9-1. スネート・チュティンターノン『浄水詩と飲水誓忠式』『タムマサート大学雑誌』9-1)
- สวิทัย วรรณณหทัย 2508 ต้าราพิไชยสังคرامไทย-จีน พระนคร : เกษมนบรรกิกิจ (Suwit Wanthon-thai. 1965. Tamrā phichai songkhrām Thai-Čīn. Bangkok : kasēmbannakit. スウィット・ワンタナタイ『タイと中国の戦勝教書』)
- เสี้ยรโกเกศ 2510 ชีวิตชาวไทยสมัยก่อน พระนคร : ราชบัณฑิตยสถาน (Sathiankōsēt. 1967. Chīwit Chāo Thai Samaikōn. Bangkok : Ratchabanditayasathan. サティエンコーセート『昔のタイ人の生活』)

## 英語・日本語

- Griswold, A.B. and Prasert Na Nagara. 1976, "A Fifteenth Century Siamese Historical Poem." in Cowan and Wolters ed. *Southeast Asian History and Historiography : Essays Presented to D.G.E. Hall*. London, Cornell Univ. Press.
- 加納寛 1996 「バンコク市街地における土地神信仰の変遷：祠・神体の形態変化を中心に」『東南アジア歴史と文化』25, 山川出版社。
- 加納寛 2002 『タイ国バンコク都パトゥムワン区ラーチャテーウィー区土地神祠データベース』愛知大学国際コミュニケーション学部
- 森幹男 1967 「タイ国社会における国王概念の変遷－特にトゥー・ナム誓忠式を中心として」『民族学研究』31-4
- 森幹男 1973 「タイ国の「国健神」信仰」『東京外国语大学アジア・アフリカ言語文化研究所通信』20。
- 富田竹二郎編訳 1981 『タイ国古典文学名作選』井村文化事業社。
- Wyatt, Davit K. 1967. "Three Sukhothai Oaths of Allegiance." 27th International Congress of Orientalist, Michigan. also in *Studies in Thai History*. Chiang Mai, Silkworm Books, 1994.
- Wyatt, Davit K. 1989. "Assault by Ghosts : Politics and Religion in Nan in the Eighteenth Century." *Crossroads*. 4-2. also in *Studies in Thai History*. Chiang Mai, Silkworm Books, 1994.
- Wyatt, David K. & Aroonrut Wichienkeeo. 1995. *The Chiang Mai Chronicle*. Chiang Mai—Silkworm Books.